

日本のPスタンプの謎のこだわり

片山 晴史

今回、ただ集めていただだけのPスタンプを「コレクション拝見」を機会に整理しました。まだかなりの未集分がありますが、皆様のご援助をお願いします。Pスタンプはそれほど集めている方がおられないのが残念です。整理してみると不思議な世界でした。

Pスタンプとは 〈その定義と歴史〉

日本では「写真付き切手」としてスタートしたので P = 写真と思われがちですが本来は、制作に参画できる切手という意味で **Personal stamp** のことです。スタイルとしては、タブ付き、フレームの 2 タイプがあります。世界ではフレームが先で 1994 年のカナダ、タブ付きは 1999 年のオーストラリアです。日本では 2001 年の日本国際切手展の会場で試験的にタブスタイルが登場し、2003 年の全日展会場でのデモ販売を経て、全国発売を開始しました。

カタログでの扱われ方がひどいPスタンプ

- ・Pスタンプには個別の番号がつけられず、ほぼシートで種分けされている。
- ・目打ちやマイクロ文字や特殊加工の説明が一切ない。
- ・明らかな違いがあるものを無視している

偽造防止加工に執着している P スタンプ 〈カタログは無視〉

以下登場した加工内容を紹介します。

- ・パール印刷（傾けると長方形が見える）
- ・マイクロ文字（日本郵政公社、郵便事業株式会社、日本郵便株式会社毎に英文標記が変わる）
- ・変形目打ち
- ・メタリックマルチイメージ加工

目論見がくずれて 3 年で断念した P スタンプ版年賀切手（お年玉付き 50 面シート）

注文生産するPスタンプでは発行日が特定できず、カタログでは受付開始日が記録されてきたが、07年用では8月から受付を開始し、11月1日を発行日に指定して初日印も存在する。注文を20シート以上で10万シート作成するも惨敗。翌年は、10月からの受付で注文制限を10シート以上へと緩和。5万シート準備するも伸びず、翌年まで同じ条件で継続するも3年で撤退した。2種連刷の意味も不明。

フレーム切手の定義がくずれる

2007年11月から受付開始されたオリジナルデザイン（シート地）専用シートの大型2種は、もはやフレームタイプではなく、タブ付きタイプとなっている。またこのシリーズのみなぜか変形目打ちがない、謎のこだわり。

ほかにも謎の新発行がある 〈実物は見えていません〉

2022年の5月と9月にフレーム内にぼすくまとシナモロール、キティ&ぼすこぐま、が印刷される期間限定版の発行の記事が郵趣に掲載されたが、これは新フレーム以外の何者でもないかと断定できるが、なぜかわざわざ新フレームではないとの注釈があり、謎。

今年の料金改正で新たなPスタンプが登場すると思われます。今後も頑張って謎解きに励みたいと思っております。

日本のPスタンプ

80円「切り花」シート

シール式でサイズなど詳細は「金・銀」と同じだが偽造防止策が「金・銀」ではメタリック・マルチイメージ印刷がされていたのに対し、マイクロ文字印刷での隠し文字が施されている。
10面シートの上下に5種の切り花が配され、5種×2の10面となっている。



マツムシソウ



ケイトウ



バラ



コチョウラン

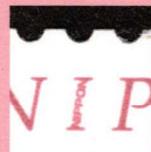


センニチコウ

マイクロ文字とは

デザインの一部に微細な文字を印刷し、複写を困難にするための偽造防止技術。お札などに多用されている。

この切手では、上部の欧文国名表示の「NIPPON」の「I」の文字にマイクロ文字で「NIPPON」の文字が隠されている。



5種とも同じ位置に隠し文字がある

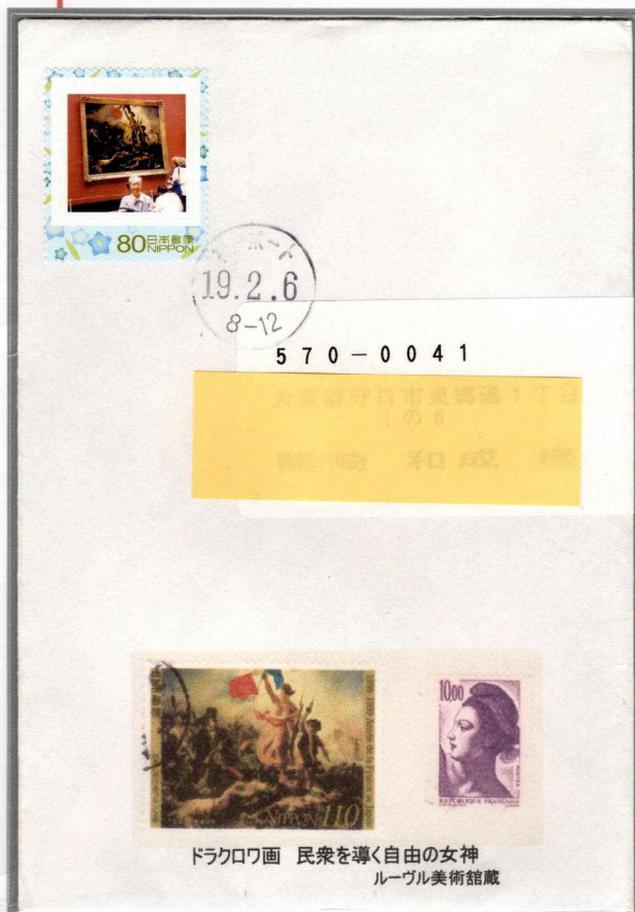
日本のPスタンプ

2006年9月受付開始でフレームタイプのPスタンプ初登場

これまでのPスタンプはすべてタブスタイルだったが、日本にもフレームタイプが登場した。本来の切手は周囲の額縁状のデザイン部分で中央に購入者が使用できるスペースがある。フレーム部分が切手であることを主張するように、中央のオリジナルデザインスペースの周囲にはルーレット目打ちがあり、切手との境界を明瞭に示している。つまり中央をくり抜いてフレームだけにしても切手として使用できることになる。

80円「フラワーフレーム」2種

フラワーフレームには水色と黄色の2種があり市松模様に乗された10面シートになっている



ドラクロワ画 民衆を導く自由の女神
ルーヴル美術館蔵

「フラワーフレーム 水色」の実通カバー



水色

偽造防止策としてデザイン部の右下にJAPANPOSTのマイクロ文字、切手の左下に楕円目打がある



黄色

偽造防止策としてデザイン部の右上にJAPANPOSTのマイクロ文字、切手の左下に楕円目打がある



日本のPスタンプ

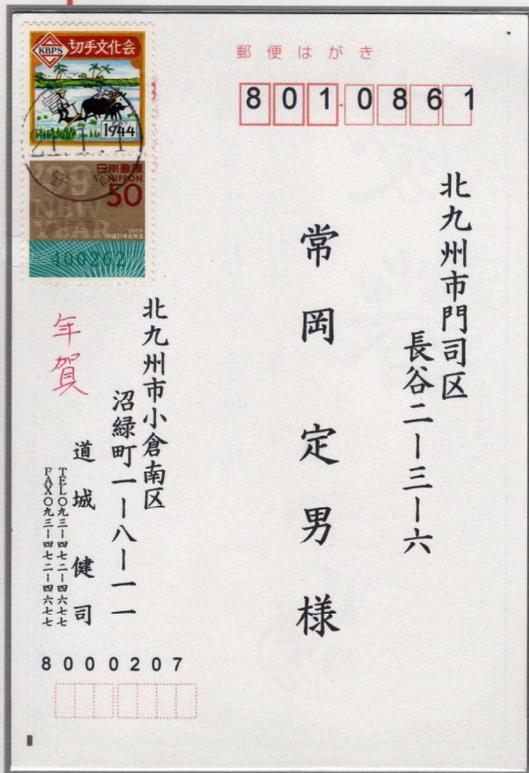
2007年～9年用のPスタイルの年賀切手が登場

フレームタイプのPスタンプの登場後であるが、2008年11月にタブタイプで、シール式でなく、裏糊目打ちタイプで2種連刷のお年玉付き年賀切手が発行され、その後2008年まで3年間継続して発行された。

上に付いたデザイン用タブは初めてで、その後はない。2種連刷25組の50面シート。これまでのPスタンプは受付開始日が発表されていたが、年賀切手では11/1, 11/1, 11/4と3年間とも発行日が設定されていた。大量注文を想定し、受付期間を早めに長期間取り、設定日での発行は可能と判断したと思われる。

受付原稿は1点のみで額面2500円を3000円で販売、20シート以上が条件だったが、翌年から10シート以上へと引き下げられた。偽造防止策として「金・銀」シートで採用されたメタリックマルチイメージ加工が用いられた。また注文告知時の必要性からか2003年以降制作されていなかった「みほん」字入り切手が制作されている。公式には「オリジナル年賀切手」としているが、2種連刷にした意図がよくわからない。

オリジナル年賀切手



'09年用オリジナル年賀切手貼
実通年賀状

'07年用

- ・メタリックマルチ
イメージ加工
文字は「亥」と
「'07 NEW YEAR」
- ・発売数10万シート
- ・注文は20シート以上
- ・受付期間
2006.8.28～10.31



'08年用

- ・メタリックマルチ
イメージ加工
文字は「ね」と
「'08 NEW YEAR」
- ・発売数5万シート
- ・注文は10シート以上
- ・受付期間
2007.10.1～11.26



'09年用

- ・メタリックマルチ
イメージ加工
文字は「丑」と
「'09 NEW YEAR」
- ・発売数5万シート
- ・注文は10シート以上
- ・受付期間
2008.10.1～11.28



日本のPスタンプ

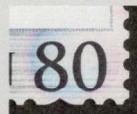
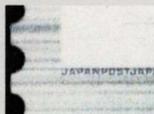
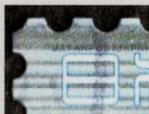
80円「シルバーフレーム」

シルバーフレームは1種10面シートだが、偽造防止策のマイクロ文字が上下2箇所あり、フラワーフレーム同様に変形目打ちもある10面シートになっている



シルバーフレーム

偽造防止策として「日本郵便」の上とデザイン部の左下から右はし経由で上部までの2箇所「JAPANPOST」のマイクロ文字、切手の右下に曲線での山形目打がある



2007年10月郵政民営化後の受付分からフラワー・シルバーのフレームタイプにマイクロ文字の変更など変異版が登場

マイクロ文字が「JAPAN POST SERVICE Co.,Ltd.」へ変更され、黄色では位置がデザインスペースの右横上から左上へ、水色では右下から右横下へ移動した。目打ちは直線の山形となり、フレーム上部の幅が2倍くらいに広がっている。



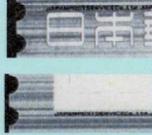
フラワー黄色



フラワー水色



シルバー
頭出しタイプ



新ロゴのマイクロ文字がデザインスペースから頭が出ているタイプと左はし揃えになっているものの2タイプがある。頭揃えになっているタイプは上部のロゴも「日本郵便」の文字の頭と揃っている。目打ちはフラワーと同じく直線の山形となった。



シルバー
頭揃えタイプ

日本のPスタンプ

2007年11月から80円オリジナルデザイン専用シートも発売

大型サイズ2点を含む80円10シートが発売されたが偽造防止策の変形目打ちはなくなり、マイクロ文字 JAPAN POSTSERVICE Co.,LTD.だけになった。大型はタブが左右にあることで異なり、他は文字の色違いで4種に、合計6種となる。



中型でNIPPON と額面80円の色が緑バージョン2枚貼りカバー

No-18